

岩手県の東日本大震災復興視察を終えて

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会
猪熊 明

2014年9月9、10日に、全国土木施工管理技士会連合会主催で谷口会長を団長とした26名で、岩手県内の被災地の復興事業の視察を行いました。ルートは3年前と同じで、1日目が南の陸前高田市から、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町と北上し、2日目が宮古市田老地区を中心に視察しました。

陸前高田市（写真1）は、開けた砂浜を持つ街で津波での死者の割合が大きかった所です。岩手県沿岸部の津波対策では、多くの地域で盛土による住宅地のかさ上げ対策を組み込んでいますが、ここは其中でも最も大規模に行われ、写真のように覆いのあるベルトコンベアーでの工事中でし

た。ただ盛土方式は、多くの地域で一部土地所有者の同意が得られず、工事の進捗が芳しくない場合があります事前調整の難しさを感じさせられました。

釜石市（写真2）では、3年前驚かされた陸上の船はクレーンとフロートで無事海に戻され広島方面に曳航されたそうです。今は岸壁に裂け目が残るくらいしか傷痕はありませんが、写真では背景のビルの形から同一地点と分かります。

宮古市田老地区（写真3）でも、残った堤防の内側をかさ上げする計画ですが、写真で見られるようにそれほど進んでいるようではありません。ただ写真と反対側の山は高台移転対策のために山がかなり削ら



視察団一行

れ、こちらの工事は進んでいる様子でした。田老地区は、明治、昭和に過去2回津波にあっており、今回も190名近くの死者を出し、死者の割合も陸前高田市ほどでは

ありませんが、他の地域より高いです。生き残りの地元の方が「津波はこれから来ると確信するようになった」とおっしゃったのが印象的でした。



写真1 陸前高田市 (3年前)



今回



写真2 釜石市 (3年前)



今回



写真3 宮古市田老地区 (3年前)



今回